

ベクトルは縦横のどちらで書いても差し支えない. $\partial_x f := \frac{\partial f}{\partial x}$ のような略記は断りなく用いてよい.

1. (1) $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in \mathbb{R}^3$ を 1 次独立なベクトルとする. $a, b, c, d \in \mathbb{R}$ に対し, $(a\mathbf{u} + b\mathbf{v}) \times (c\mathbf{u} + d\mathbf{v}) = p\mathbf{u} + q\mathbf{v} + r(\mathbf{u} \times \mathbf{v})$ となるような $p, q, r \in \mathbb{R}$ を a, b, c, d を用いて表せ. (答のみでよい)

(2) ベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) = \begin{pmatrix} xy^2 + 2zx + 4x \\ yz^2 + 4xy + 9y \\ zx^2 + 6yz + z \end{pmatrix}$ に対し, $(\operatorname{div} \mathbf{V})(\mathbf{u}) = 0$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3$ をすべて求めよ. (答のみでよい)

(3) ベクトル場 $\mathbf{W}(x, y, z) := \begin{pmatrix} zx + xy \\ xy + yz \\ yz + zx \end{pmatrix}$ に対し, $(\operatorname{rot} \mathbf{W})(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3$ をすべて求めよ. (答のみでよい)

(4) 関数 $f(x, y, z) := \frac{x}{1 + x^2 + y^2 + z^2}$ に対し, $\operatorname{grad}(f)(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3$ をすべて求めよ. (答のみでよい)

(5) 関数 $g(x, y, z) := e^{ax+by+cz}$ に対し, $\operatorname{div}(\operatorname{grad}(g))$ を計算せよ. ただし $a, b, c \in \mathbb{R}$ は定数とする. (答のみでよい)

2. $f(x, y, z) := x^2 + y^2 + z^2 - 6x + 4y - 2z$ とおき, $S := f^{-1}(-13)$ とする.

(1) $\operatorname{grad}(f)(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3$ をすべて求めよ.

(2) S は曲面であることを示せ.

(3) $\mathbf{v} = (a, b, c) \in S$ に対し, 部分ベクトル空間 $T_{\mathbf{v}}S \subset \mathbb{R}^3$ を表す方程式を求めよ.

(4) $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix} \in T_{\mathbf{w}}^{\perp}S$ となるような $\mathbf{w} \in S$ をすべて求めよ.

(5) ベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) := \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ に対し, $\int_S \mathbf{V} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ. ただし S の向きは, S が囲む有界領域 Ω の内側から外側に向かう法ベクトルで与える.

3. 2 変数 C^∞ 級関数 $h: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ は任意の $(x, y) \in \mathbb{R}^2$ に対し $h(x, y) > 0$ をみたし, さらに $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ において r, θ の関数とみたとき, h は r に関して単調減少であるとする. このとき

$$S := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x^2 + y^2 - z^2 = 1, -1 \leq z \leq h(x, y)\}$$

は境界つきコンパクト曲面である (証明不要).

(1) S の向き $\mathbf{n}: S \rightarrow \mathbb{R}^3$ を, $\mathbf{n}(1, 0, 0) = (-1, 0, 0)$ をみたすように与える. $\partial_- S := \{(x, y, -1) \in S\}$ を表す周期的な正則パラメータ $\mathbf{l}: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^3$ で, \mathbf{n} により導かれる向きを表すものを 1 つ求めよ.

(2) ベクトル場 $\mathbf{V}(x, y, z) := \frac{1}{x^2 + 9y^2} \begin{pmatrix} -y \\ x \\ 0 \end{pmatrix}$ に対し, $\operatorname{rot} \mathbf{V}$ を求めよ. (答のみでよい)

(3) $\partial_+ S := \{(x, y, z) \in S \mid z = h(x, y)\}$ とおき, $\partial_+ S$ を表す周期的な正則パラメータ $\mathbf{m}: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^3$ で, (1) の \mathbf{n} により導かれる向きを表すものを取る. (2) の \mathbf{V} に対し, $\int_{\mathbf{m}} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{m}$ を計算せよ.

4. $S \subset \mathbb{R}^3$ は閉曲面で, 有界領域 Ω を囲むとする. S の向きを, Ω の内側から外側に向かう法ベクトルで与える.

(1) 3 変数 C^∞ 級関数 $f, g: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対し, 次の等式を示せ.

$$\int_S (g \cdot \operatorname{grad}(f)) \cdot d\mathbf{S} = \int_\Omega (\operatorname{grad}(f) \cdot \operatorname{grad}(g) + g \cdot \Delta f) dx dy dz$$

ただし, 3 変数 C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対し, $\Delta f := \frac{\partial^2 f}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 f}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 f}{\partial z^2}$ である.

(2) 3 変数 C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ は Ω 上で $\Delta f = 0$ を満たし, さらに S 上で $f = 0$ であるとする. このとき, Ω 上で $f = 0$ であることを示せ.